

# 真鶴 自治会だより

ふれあい・思いやり・たすけあい

## 明るく住みよい町に向かって

題目に掲げた「明るく住みよい町」とはどんな町ですか？

正面きってこう問われると私は答えずに窮し、立ち往生です。

しかし皆さんの頭の中には漠然とではあるが「こんな町でありたい」と何か浮かぶのではないかと思います、今回はこの問題に生意気にも取り組んでみたいと思いました。

歌の文句ではありませんが「人生いろいろ」価値観いろいろ。良い町いろいろです。

此の文を読んでいただける方は、真鶴町にお住まいの方で、しかも自治会という地域団体に参加して、住みよい町づくりをいつも心のどこかで考え、希望している方ばかりだと思います。その辺の価値観を土台にして対象を絞り整理し述べてみたいと思います。

「明るく住みよい町を目指すため」にはいろいろな道や手段があると思いますが、



① 挨拶運動で町を明るく、  
② ルールを守って住みよい町

此の2点が大切な要素ではないかと思われます。

### ① 挨拶運動・・・

学校でも職場でも地域でもまた家庭でも挨拶運動の励行を盛んに奨励されていますが、なかなか浸透せず効果が目に見えてきません。

子供からはなぜ知らない人に挨拶しなければいけないの？と問いかけるし、誘拐等からんだ不祥事の発生で知らない人から声をかけられたらどうするの？確かにその通りだが、近所の人が知らない人であってはいけないし、学校へ登校すれば皆で仲良く勉強もし遊びもしなければならぬ。

子供たちの授業や、遊びの時間の挨拶はどのようにするか先生にいろいろ教えられていると思います。また家庭でも挨拶のしつけをそれなりに行われていると思います。職場でも上司や同僚と或いは顧客との間で挨拶についての教育環境が整って実行されていることは事実です。それなのになぜ効果が認められず、いつもいつも挨拶運動が提起されるのか不思議でなりません。効果が現れていないという原因を私は家庭、学校、職場、地域それぞれに垣根があってその垣根の内では良くできているが、垣根の外の人との挨拶に皆戸惑いを感じてはいないだろうか、そこに挨拶運動の効果が目に見えない原因がある様に思えてきました。挨拶運動の原点は家庭にあり、その実施の教育は学校にあります。これをつなぐのは地域ではないだろうか、家庭も学校も地域に存在しながらその地域の存在を見失ってははいないだろうか。

自治会の皆さんこの事をじっくり考えて見ませんか。家庭の挨拶のしつけが登下校の時地域の皆さんと実践され、学校でさらに磨かれれば真鶴の町は必ず親しみが湧き犯罪も抑制され明るい町になると思います。挨拶運動は地域住民の自治会の皆さんが鍵を握っています。皆で明るく垣根の無い挨拶運動を推進してみたいものです。子供たちも皆さんの笑顔に引かれてきつと成果が上がります。挨拶は好意と友情の発露であるとともに物事のけじめの言葉でもあり、相手への感謝の言葉でもある。まずは家庭で、そして地域で、学校で、職場で感謝とけじめのために誰からではなく挨拶の声を発せようではありませんか。観光客にも垣根の無い声掛けをして真鶴の明るさをアピールすることが出来れば、観光真鶴の一つのカラーとなり観光立町に幸いすると思います。

### ② ルールを守る・・・

道交法が改正され酒飲み運転で何十万の罰金だ、とかの話を目にするが、法律だけがルールでは無い。真鶴町内には昔からの良いしきたりがいっぱいある、しきたりにはやって良いこと悪いことが先輩から後輩へ口伝や、行動で

良い習慣として受け継がれているこれもルールだ。左側通行の交通法規、登下校の時間、法律は民主主義の国会で決めた日本国民の守らなければならない大切なルールだ。

良いルールがあり、それが守られる地域や国は安全であり明るい。ごみの回収ルールが確実に守られれば町もきれいに清掃経費も削減出来る。

地球温暖化防止のために京都議定書が発効した。これは地球の自然体系を守ろうとの人類全体の共通のルールである。私たちの真鶴町には国の法律に先駆けた自然環境を守りつつ明るい町づくりのため「美の基準」「まちづくり条例」(平成6年公布)が我々住民の代表である時の町長や議員が民主的方法で決めた条例(ルール)がある。私たちはこれらのルールを住民自身が守るとともにこれから町にこられる人にも守ってもらい自然環境に優れた真鶴を「明るく住みよい町」にして後世の人に残す義務がある。この義務も私たちが守りたいルールであると私は考えている。

「百の説法より一つの実践が大切」です。また逆に「赤信号皆でわたれば怖くない」は絶対にあってはならないと強く訴える。

自治会連合会長 錦織 潔

## 守っていますか？ ごみの出し方のルール!

多くの皆さんは、きちんとルールを守っていますが、一部の方がルールを守らないことが、町の美化をそこねたり、リサイクルの妨げとなります。もう一度、収集カレンダーをよく読んで、それぞれの品目の出し方を確認しましょう。

### 確認①

ペットボトルやビンのキャップははずしていますか？  
ペットボトルやビンのキャップは必ずはずして出しましょう。

### 確認②

前日から次の日のごみを収集場所に出していませんか？  
ごみは収集日の朝(8時まで)に出してください。前日から出されると、猫やカラスに荒らされたり、通行の邪魔になったり付近の皆さんの迷惑となります。

### 確認③

ピンは町指定のピン専用袋で出していますか？  
ピンは、①無色、②茶色、③その他の色に分け、ピン専用袋で出してください。

真鶴町観光美化推進協会

# もちつき体験学習

城北自治会では、地域住民と児童とのふれあいの場づくりとして、ひまわり子供会協力により、2月13日(日)城北用留公園内にて盛大にもちつき体験学習が開催されました。当日は、冬晴の寒い朝でしたが、児童及び保護者多数(児童40名・保護者一



城北ひまわり子供会

般20名)の参加がありました。児童たちの「よいしょ、よいしょ」という掛け声が響き熱気で、寒さは何処へ行ったのか。子供会の保護者と自治会役員が前日から仕度、もち米30キロをとき、野菜切りなどの下準備が大変でした。早朝から米を蒸して準備。

きねを手にした児童は「思ったより重くてびっくりした」と言いながら代わる代わるもちをついた。女子児童は「おもちの手かえし」を初めて体験し「手が熱かった」と言っていた。きねを持ってない児童は、保護者が手をかしてやり、ダイコンおろし、きな粉、あんこもちにして味わいました。また、子供の笑顔がなんとも印象的でした。このような行事を、お年寄りから子ども達まで幅広い方々で交流できるように、子供会、自治会共に一般の地域住民を交えて、参加できるように、今後とも皆様のご協力により盛り上げていきたい。

# 今年のごんどんど焼き

今年も無事、ごんどんど焼き行事を行うことが出来ました。自治会有志のみなさまには本当にお世話になりました。ありがとうございます。

当初予定の十五日が雨と強風で危険なため、一週間後の二十二日に延期しての実施となりました。昨年は相次ぐ台風の影響や秋の長雨、新潟の大地震など、自然の猛威に翻弄され、その怖さを思い知らされた一年でした。私たちも「無理をしないといけない」と、はやる気持ちを抑えて順延としました。(ご負担をかけてしまったみなさまにはお詫び申し上げます)

「今年こそは、穏やかな一年となりますように！」お正月飾りを集めて燃やし、家庭や地域の安全や繁盛を祈るごんどんど焼き行事。常にも増して、その願いが切実であつたらうと思ひます。当日は快晴、風もなかく穏やかで、願いが天に通じたかのようでした。

岩海岸のごんどんど焼きは、かつての道祖神祭りの一環で、子供が担い手のお祭りでした。それが、従来は岩地区子供会の保護者のみなさんが担い手となり、これに丸山道祖神保存会のご協力を得て行ってききました。しかし、少子化による子供会活動の低迷により、行事の遂行が不可能となりました。このままでは真鶴からごんどんど焼きの火が消えてしまう！そこで、子供会保護者のOBと自治会などの有志が集まり、多くのみなさんのご協力を得ながら引き継ぐことになりました。今年がその二年目。まだ手探りです。やぐら立てのための竹切り作業。平均年齢は五十代後半から六十代。「なんだかロートルばかりだなあ」とぼやくつも、子供の頃、山野を駆けめぐる世代、できたごんどんど焼きのやぐらは、二週間の風雨にも

## 募集

### 観光ボランティアガイド

日本のリヴィエラと云われている真鶴は、世界の人々が認める景観と自然・歴史・文化を誇れる観光地です。現在7人(男性5人、女性2人)の観光ボランティアがご案内していますが、ガイド員の人数を増やしたいと思っています。外国語が出来る人も募集していますので是非ご応募ください。主な仕事は、以下のような内容で都合のつく人が担当します。従って仕事上の強制は一切ありません。

- ①土、日、祝日の午前中、情報センターでの観光客への対応
- ②真鶴半島内の観光案内2～3時間程度
- ③岩海岸付近の観光案内1～2時間程度
- ④毎月1回(第1土曜日)定例情報交換会
- ⑤その他

申し込み・問い合わせ先

- ・真鶴町観光ボランティア協議会会長 竹野宏侑 電話68-6037
- ・真鶴町観光協会 電話68-1001
- ・真鶴町産業観光課 電話68-1131

真鶴町観光ボランティア協議会

びくともせず、しっかりしたものでした。「さすが！」と、先輩方の力量に脱帽しました。この竹切り、柱立ては、やってみると実におもしろいものです。普段は顔を合わせられない地域の男たちが、力を合わせて取り組む協同作業。冗談をいながら、でも真剣に、お互いの呼吸を合わせて柱を立てていく。新しい年を迎える行事として、実にはすがすがしいものです。もし、興味があれば、来年はぜひ参加して下さい。またたくの手探り、試行錯誤でやっていきますので、難しいことはありません。今年丸山の道祖神祭りと一緒に

きませんでしたが、岩地区ではお囃子保存会のみなさんのご協力で、岩地区の子供たちの太鼓が数十年前ぶりに復活しました。また、火付け係りだけでなく、燃え残りの片づけ作業を最後まで手伝ってくれたお子さんたちもいました。「僕たちの岩海岸をきれいにしなぐっちゃんね！」と。この子供たちのためにも、続けていきたいと思ひます。

岩海岸ごんどんど焼き実行委員会  
櫻井 武